

2012年1月20日、神岡宇宙素粒子研究施設に近い飛騨市北部会館において、大型低温重力波望遠鏡の安全祈願祭および着工記念式典（以下、着工記念行事）が執り行われました。



図 2 図 1 中村様と佐藤教授にスーパーカミオカンデについて解説する鈴木施設長

あるスーパーカミオカンデ、暗黒物質の直接探索実験装置であるXMASS、そして今回着工記念行事を行う大型低温重力波望遠鏡のプロトタイプであるCLIOです。スーパーカミオカンデおよびXMASSの説明は、神岡宇宙素粒子研究施設長の鈴木洋一郎教授が行い（図1、2参照）、CLIOは重力波推進室神岡分室長の大橋正健准教授が行いました（図3参照）。見学は終始和やかな雰囲気、たくさんの質問に2人の教授陣が楽しそうに答えていたのが非常に印象的でした。

16時から、重力波推進室の研究室として借用することとなっている神岡町北部会館2階にて着工記念行事がしめやかに執



図 3CLIO の前で解説する重力波推進室神岡分室長の大橋准教授と中村様、佐藤教授

り行われました。その後、祝賀会がANAクラウンプラザホテル富山にて開かれました。当日は雪が降ることも無く概ね良好な天候であり、大型低温重力波望遠鏡の建設が滞りなく完成へと向かうことを象徴しているかのようでした。

着工記念行事の前に、文部科学省の中村卓様、大学共同利用機関法人自然科学研究機構長の佐藤勝彦教授を神岡坑道内へとお連れし、3つの実験施設を見学して頂きました。ニュートリノ観測装置で



図 1XMASS の前で鈴木施設長より解説を受ける中村様と佐藤教授

り行われました（工事概要に関しては、宇宙線研究所HPより1月16日付プレスリリースをご参照ください）。

式典はまず施工者である鹿島建設(株)主催による安全祈願祭から始まり、地元飛騨市大津神社の結城宮司神官により、多くの来賓・来客ご列席の下、滞りなく進められました（図4参照）。続いて重力波推進室長・黒田和明教授による司会の下、



図 4 安全祈願祭の様子



図 5 着工式で祝辞を賜った澤川文部科学省
研究振興局学術機関課長



図 6 着工式で祝辞を賜った岐阜県知事
古田肇様代理の飛騨振興局副局長岩崎正人様

宇宙線研究所主催の着工式が開催されました。着工式では、施主として所長の梶田隆章教授が挨拶し、施工者として鹿島建設株式会社専務執行役員土木営業本部長の村田曄昭様に挨拶を頂戴しました。その後、文部科学省研究振興局学術機関課長の澤川和宏様、岐阜県知事古田肇様、岐阜県飛騨市長の井上久則様より祝辞を賜りました。これらの方のお言葉から、ノーベル賞級の研究成果が期待される大型低温重力波望遠鏡への強い期待が感じられ、関係者一同重い責務を完了することへの重圧とともに、これから新たなる学術分野を切り開いていくことへの高揚感も同時に感じていたのではないかと感じられました。なお、この式典には報道機関9社も取材に来られ、すでにそちらをご覧になられた方も多いのではないか

と思います。

19時から場所を変え、ANAクラウンプラザホテル富山の最上階に位置する「天空の間」にて、祝賀会が開催されました(写真4、5、6参照)。富山市を一望することができる会場には、関係機関・関係企業などから蒼々たる顔ぶれが集まりました。司会を重力波推進室・川村静児教授が務め、施主挨拶として前田正史理事・副学長から、また施工者挨拶として神岡鉱業株式会社代表取締役社長の森俊樹様よりお言葉を頂戴し、乾杯の音頭は神岡の地元地権者を代表して飛騨市金竜寺住職の杉崎良憲様に取って頂き

ました。

祝賀会では大橋准教授より大型低温重力波望遠鏡施設概要の紹介も行われ、会場内の様々な場所で装置に関する想いを語り合う場面も見受けられました。また、重力波のプロ



図 7 着工式で祝辞を賜った岐阜県飛騨市長
井上久則様



図 8 祝賀会開始直後の様子



図 9 施主として挨拶する前田正史理事・副学長

が、それを乗り越え、重力波検出を成し遂げる日が来るのはそう遠くないと思います。それまで是非とも大型低温重力波望遠鏡を、そして宇宙線研究所を応援して頂ければと思います。

プロジェクトを共同で推進する3研究機関を代表して高エネルギー加速器研究機構長の鈴木厚人様と自然科学研究機構長の佐藤勝彦様よりお言葉をいただきました。そしてこの式典のために来日されたアメリカの重力波天文台 LIGO 共同実験代表の Gabriela Gonzalez 様からスピーチを頂き、引き続き欧州の重力波天文台

VIRGO の共同実験代表の Federico Ferrini 様、Jean-Yves Vinet 様、Francesco Fidecaro 様からのビデオメッセージを、英国グラスゴー大学教授・前重力波国際委員会委員長の James Hough 様よりメッセージを頂戴し、会場内は暖かい拍手で包まれました。

宇宙線研究所がホスト研究機関として建設する大型低温重力波望遠鏡の着工記念行事は滞りなく締めくくられ、今後宇宙線研究所は人類初の重力波検出に向けていよいよその歩みを進み始めます。

祝賀会のスピーチでも賜りましたが、このような大型実験装置の建設には、完成まである程度の時間を要し、予想を超えた困難が待ち受けている場合も少なくありません。しかしながら、関係者が一丸となって重力波初検出に向けて邁進しようという気概が強く感じられた、そんな祝賀会でした。

大型低温重力波望遠鏡は、数年後には少しずつ観測を開始する予定です。たくさんさんの困難な出来事があるとは思いますが



図 10 祝辞を賜った岐阜県飛騨市議会議員長 森下真次様



図 11 乾杯の音頭を取って頂いた金竜寺住職の 杉崎良憲様



図 12 装置の概要を説明する大橋准教授



図 13 高エネルギー加速器研究機構長の鈴木厚人教授



図 14 自然科学研究機構長の佐藤勝彦教授



図 15 LIGO 共同実験代表 Gabriela Gonzalez 様